

イマドキ結婚トレンド情報

**TOPIC1: 進化する『ネット婚活』 TwitterやSNSなど、出会いの場がIT化?!
自分にプレッシャーをかけてしまう『婚圧族』も急増中**

**TOPIC2: 現代人は昔と比べてマナー力が低下している?
『マナー』を学んで挙式に備える、イマドキ新郎新婦**

TOPIC:1 進化する『ネット婚活』

変化を続ける『婚活スタイル』 自分に合った婚活スタイルとは?

今では定番となった『婚活』という言葉。時代の流れや変化とともに、『婚活』のスタイルも変化してきました。昔は両親の知人の紹介のもと、数人を含め食事会を開きお見合いを行ったり、といった形式だった婚活スタイルが一般的でしたが、現在では両親や会社の上司の紹介といった人を通じてではなく、個人個人が自分に合ったスタイルで出会いの場を選び、婚活を行うスタイルが一般的となりました。

まさに現代の婚活スタイルの象徴ともいえる『ネット婚活』は、『twitter』や『mixi』といったSNSの登場で、更に進化を続けています。『twitter』などでは、同じ趣味を通じて知り合うことができるため、話も合いやすいといった声もあり、実際twitterが出会いの場となり結婚した『ツイ婚活』や、SNSで出会い、結婚した『mixi婚活』といった言葉も登場しています。

「時間がない」「出会いがない」「出会っても、失敗したくない」そのような気持ちから、事前に趣味志向が合うのかどうか、会わずに相手のことをある程度分ることができる、という点で忙しい現代人にとっては効率的な婚活なのかもしれません。

< ネット婚活の利点 >

- 仕事などで時間がない
メール等から気軽に知り合いになれる
- 良い出会いがない
コミュニティや、検索から、趣味志向が合う人と出会う確立が高い
- 出会っても趣味も違う、性格も合わない、そんな人ばかり…もう失敗はしたくない
- ・性格はどのような人が、事前にお互いの情報を知ることができる
- ・出会う前のある程度お互いの相性が選別できる



『婚活』にプレッシャーを感じる『婚圧族』が急増中??

『婚活』という言葉が定着し、メディアを通じて日々『婚活』という言葉を目にするようになりました。また、最近では「婚活しなくちゃ…」「今婚活中です」「婚活したら?」など、日常会話にも頻繁に使用されるようになり、『婚活』という言葉が一人歩きをはじめ、あらゆるところで使われるようになりました。

そういった中、逆に『婚活』という言葉自体にプレッシャーを感じ、自分自身で自分を追い込んでしまう『婚圧族』が急増しています。あちこちで『婚活』という言葉を目にするようになり、晩婚化や少子化といった問題まで取り上げられ、なんとなく、「結婚しないといけない」風潮ができあがってしまい、独身の方が「私も婚活しないといけないのか?」といった不安にかられてしまったり、プレッシャーを感じてしまう『婚圧』という問題が出てきています。

『婚圧』でプレッシャーを感じている女性が、更にお付き合いをしている男性にもプレッシャーをかけてしまう等本当に結婚をしたいのか、「結婚しないといけない」風潮に流されているのか、きちんと自分自身を見極めて婚活と付き合いしていく必要があります。



ライフスタイルが多様化し、様々な価値感がある昨今では、結婚が一番の幸せとはいえないのかもしれませんが、まずは、本当に結婚をしたいのかが大切です。本人がその気にならなくては始まりません。結婚をすると決めたら、やはりなるべく出会いの機会を作るようにすること。仕事でも人生でも様々な経験を重ねるほど、相手を見る目も厳しくなるし、妥協はしたくないと思うかもしれません。まずは、自分の中の優先順位をきちんと考えましょう。条件だけで絞るより、「どう生きたいか?」「どうなりたいか?」を考え、それを一緒に出来る人かどうかが重要。そして、完成品を探すのではなく、自ら「育てていく」ことも視野にいれてみてはいかがでしょうか? そして今は女性からプロポーズするのもありの時代。「彼ママを味方につける」ことで成功する女性は多いようです。

TOPIC2: 「マナー」を学んで挙式に備える、イマドキ新郎新婦 何故今「マナー」への関心が高まっているのか？社会から抜け落ちた「マナー」力。

最近「マナー」に関する特集がテレビや新聞、書籍、男性誌・女性誌問わず多くなっています。
何故今、改めて「マナー」や「礼儀」といった特集が増え、売上を伸ばし、多くの関心を集めているのでしょうか？

今まで、日本では「察する」ことを重んじる文化でしたが、今では「個性」を大切にす時代へと変化を遂げています。その流れの中で、価値観が多様化し、人と交流する力が求められているのに対し、日本ではそういう意味での教育が抜け落ちてい

ます。
現在、核家族化する中で、昔のように日常生活の中で礼儀作法を学ぶ機会自体が減り、家庭でも、学校でも、社会でも礼儀やマナーを学ぶ機会なく、過ごしていることへの不安感から、「マナー」習得への関心が高まっていることも「マナー」への関心が高まっている要因の一つであり、また、「マナー」が必要となるイベントやパーティーといった行事も少ないため、他の国と比べ、関心が低かったという点も要因の一つかもしれません。

現在、書籍等の出版物を始め、個人から受講することが可能なマナーレッスンや、本格的なレッスンまで、様々な「マナー」を学ぶ場が登場しています。

パーティーで「マナー力」、「表現力」をアップ！

Case1: モナコ王室主催 薔薇の舞踏会

海外では、パーティーの習慣がほとんどない日本とは違い、日常でパーティー等の催しが行われています。
パーティーに日常から参加するということは、マナーや礼儀、自分自身の表現力等が身に付く良い機会でもあります。

世界のセレブリティが集まる事で知られるモナコでは、華やかなイベントやパーティーが数多く行われています。
中でも、最も華やかなイベントとして知られるのは、毎年3月に行われる王室主催の舞踏会です。

2010年3月に実施された「薔薇の舞踏会」はモダンスタイル。
毎回、誰が主催するか、お国柄等によってテーマやスタイルは変わります。
そのテーマに合わせ、テーマにそった内装・料理・音楽・ダンスを楽しむというスタイルが一般的となっています。



<パーティーの様子>

Case2: ローズパーティー

ローズパーティーは、「日本にパーティ文化を広める」、「文化交流・国際交流の機会を作る」、「貢献(テーマ関連したボランティア団体へ売り上げの一部を寄付)」この3点を目的として、結婚ジャーナリストひぐちまりが開催しています。
こちらの「ローズパーティー」は、Case1でご紹介したパーティーのミニ日本版といったパーティーになります。

海外映画や海外ドラマでよく見るパーティーシーンですが、日本人もパーティーを楽しむ文化を創り、参加していくこともマナーを身に付ける上で重要です。

お洒落をして美味しい食事で楽しい時間を過ごすことはもちろん、毎回様々な海外テーマを設けることで、異国の文化にふれる機会でも有ります。

日本にパーティーを楽しむ文化を根付かせることで、これまでの黙ってても通じるという日本人の有り方から、自分を表現し、関係を創るという有り方へシフトすることができ、その有り方を実践する場所を提供することができます。
今の時代をより豊かに生きる事につながるのではないのでしょうか。



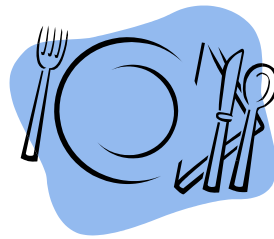
TOPIC2番外編: 意外に知らない 結婚式マナー

招待状に使っては
いけないものは？

結婚式の招待状には、「。」や「、」といった句読点は使用しません。返信用の葉書を記入する際も、句読点は入れないように注意する必要があります。

ナプキンを使用する
タイミングは？

食事の際に、テーブルに置かれているナプキン。乾杯の後、同じテーブルで一番上の方が使われたタイミングで使用するのが正しいタイミングです。

乾杯は誰と最初に
すべき？

乾杯は、まずは乾杯すべき新郎新婦に向かってグラスを上げ、その後他のゲストの方とします。フォーマルな場での乾杯はグラスとグラスはぶつけません。



「ひぐち まり」について

外資系銀行・建築企画会社を経て1988年より、ブライダルに携わる。1987年にはジミー・カーター第39代アメリカ合衆国大統領を迎えたプライベートレセプションを担当した経験もあるおもてなしのスペシャリスト。現在はウェディングプロデュース界の草分け「オリーブの丘」創設者であり、アライヴァル株式会社の会長でもある。現代の結婚事情を見据え、新しい結婚のスタイルを提案する結婚ジャーナリストとしても活躍。新郎・新婦の立ち居振る舞いレッスンや、テーブルマナーなども人気。また、結婚トレンド研究所所長、日本ブライダルプロトコル協会代表を務める。監修書籍に、8万部を売り上げたベストセラー『ウェディングのマナーとコツ』（学習研究社）や『話し方・マナー・演出のコツがわかる 結婚式短いスピーチ』（高橋書店）などがある。



結婚ジャーナリストひぐちまり公式HP: <http://higuchimari.jp/>

「オリーブの丘」について

レストランウェディングを専門に、「新郎・新婦の希望をサポート」するウェディングプロデュース会社。『結婚を機会に人生をより豊かに』をコンセプトに、20年の経験と1万組プロデュースの実績を活かし新郎新婦をサポートしている。現代の結婚事情に合わせた新しい結婚式のスタイルとして、結婚トレンド研究所にて考案された新しいスタイルなどを取り入れ、実施している。例としては、子供と夫婦と一緒に結婚式を挙げる『子披露め婚』や、新郎が新婦のお腹の赤ちゃんに贈るファーストジュエリー『ベビーリングセレモニー』などを提案し、注目を集めている。

会社名: アライヴァル株式会社
役員: 取締役会長 樋口 眞理、代表取締役社長 伊野部 博孝
本社: 東京都中央区銀座6-6-7 東京朝日ビルディング5F TEL:03-3569-3370
URL: <http://www.olive-hill.com/>